

視点1 考える必然性や切実感のある発問の在り方

○「褒められる前からなぜゆうやさんは120点の掃除をしたの？」と問うことで、外的要因(褒められる)がなくてもみんなのために働くことの大切さに気付くようにする。

今回、ゆうやさんが120点の掃除をした理由を時系列から遡るよう読み取っていった。このことにより、褒められる前から掃除をしていたということに児童自身が気付き、驚きや疑問を感じる切実な中心発問につながった。「褒められる前からなぜゆうやさんは120点の掃除をしたの？」と行動の理由を問う中心発問にしたが、他律段階の一年生が、褒められる以外で頑張れる理由を一年生なりに考え、働くことは自分のためだけではなく他の人のためにもなるということに気付けたのではないかと考える。

仮定の発問(「もし先生が褒めてくれなかったらゆうやさんは120点の掃除をすると思う?」「掃除はやりたい人だけやればいよと先生に言われたら、どう思う?」など)をすることで、ゆうやさんが褒められなかった場合などを想像し多角的な見方で考えられ、掃除をする意義や働くことのよさについてより本時のねらいに迫ることができたのではないかと考える。

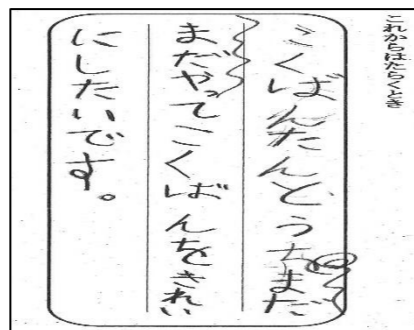


視点2 物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方

○褒められて意欲が高まったゆうやさんの気持ちに共感させつつ、褒められる前から120点の掃除ができていたことの原因を考え交流する。

交流の際、自分と相手の意見を比較し、思ったことを一言コメントするよう働きかけた。話し合っている様子やコメントの内容から、多様な考え方がありと気付いているようであった。

全体交流の場では、出た意見を類型化し板書することで、意見の似ている部分や差異が視覚的に捉えやすくなり、掃除をするのは自分のためだけではないということにより気付きやすくなるのではないかと考える。そのため普段の授業の場でも、意見の類型化等を仕組み、新しい価値や考えに出会える場の設定を今後も工夫していきたい。



視点3 自己の生き方について考えることができる発問と振り返りの在り方

○みんなのために働くことは掃除以外でどんなことがあるか、現在の生活経験の中から自分なら何ができそうか考えることで、より働くことに対する道徳的心情を育てる。

導入で取り上げた学校の仕事や活動(給食当番・係活動など)を終末で再び着目したことで、それらもみんなのためになっていることに気付き、本時の価値をより広い視野で捉えることができた。また「これからどんな気持ちで働きたいか」と問うと、褒められることにより喜びややる気を感じていた児童が、「もっと自分のやること(できること)を探したい」など、みんなのために働きたいという意欲的な記述も見られた。

友達が本時を通してどんなことを学んだのか、どのようなことを頑張ろうと思ったのかを知るという活動も、物事を多面的多角的に考え深化していく一つの方法である。そのため、この振り返りの場でも交流を行い、他者との意見や考え方の違いに触れることで、より児童自身に驚きや実感がわくのではないかと考える。

